

大平洋金属(株)佐々木社長 インタビュー

Q1. 御社（大平洋金属(株)）八戸製造所の紹介をお願い致します。

【沿革】

八戸製造所は1957年（昭和32年）、下北半島や北海道南部から採れる砂鉄を原料に砂鉄銑を生産する工場として操業を開始した。鉄の生産は、安価で効率よく大量に生産できる溶鉱炉方式が徐々に拡大していったが、八戸製造所では、電気炉を利用した製錬技術を活用し、フェロマンガンやフェロニッケルの生産へ事業転換してきた。

【フェロニッケルについて】

当社で扱っているフェロニッケルは、ステンレススチールの原料となる。青い森鉄道などの電車がステンレス車両となっているのを始め、食品工場や化学工場、病院の手術器具など、錆びない、腐食しない材料として大量に利用されるステンレススチールは、社会を支える重要な素材となっている。

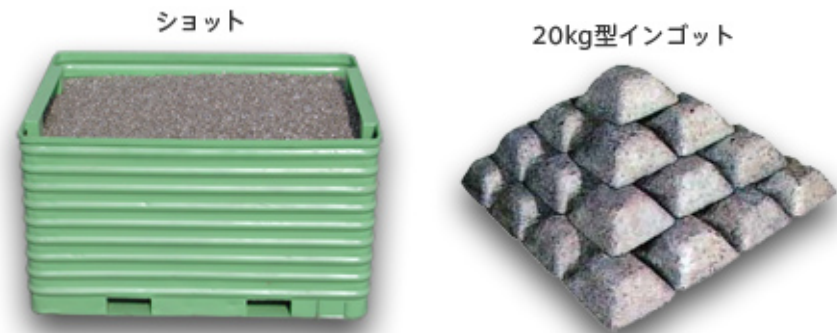
ステンレスの成分は、鉄とニッケルとクロムである。ニッケル鉱石の中には鉄も含まれていることから、ニッケルと一緒に鉄も取り出し、合金としてフェロニッケルを生産している。ニッケル鉱石から取り出されるニッケル分は非常に少なく、鉱石1tに対して13~14kgほどしかない。金属分を取り出したあとに残る、土の成分である副成物（スラグ）は、建築資材として出荷している。

【環境対策への取り組み】

2012年（平成24年）度には排水処理施設を建設し、翌年度より運転を開始するなど、環境対策への取り組みも推進している。青森県、八戸市、当社の三者協定で定めた基準値以下に管理された排水は、公共水域へ放流することが可能となっている。今後は、散水や冷却水などに再利用することも検討していく。



大平洋金属(株) 取締役社長
佐々木 朗 さん



フェロニッケル（製品） 出典：大平洋金属(株)HPより

Q2. 八戸港の利用状況についてお聞かせください。

【輸入・移入】

2013年（平成25年）度実績で、輸入はニッケル鉱石が約300万ト、石炭が約38万ト、成分調整材のドロマイトが約5万ト、コンテナ積みで電極用カーボンやカルシウムカーバイトなど合計で約4千トなどとなっている。鉱石の輸入元はフィリピン、ニューカレドニアである。移入はC重油が約4万6千キロリットルなどである。

輸入・移入の合計は約345万ト。2014年（平成26年）度はメンテナンスのため3系統のうち1系統を止めたため、合計約260万トに減っているが、2015年（平成27年）度は2013年度と同等になる見込み。

【輸出・移出】

製品であるフェロニッケルは、コンテナ積みで輸出される分が約15万ト、バラ積みで輸出される分が約5万ト、合計約20万トとなっている。インゴット（20kgの塊）はバラ積み、ショット（粒状の製品）はコンテナを使って運ばれている。輸出先は、台湾、中国、韓国、インドなどである。移出はフェロニッケルが約5万トなどである。



ニッケル鉱石の荷役状況

Q3. 東日本大震災から4年が経過しましたが、当時の被災状況についてお聞かせください。

当時、構内は深いところで約3.7m浸水したが、幸い人的被害は無かった。構内には津波避難施設が14カ所あり、当時は約520名の従業員がそこで一晩を過ごした。重要な設備は高い所に設置していたが、低い所にある配線などが塩水に浸かって使えなくなった。復旧には約2ヶ月の時間を要し、5月2日に主要設備の通電を再開し、操業を再開した。被害額は約60億円であった。震災当時、津波避難場所の備品等の備えが不十分だったため、寒さ対策や食料品不足など様々な問題が露呈し、事前の備えがいかに大切かを実感した。

人命最優先と考えれば、全員が構外へ避難するべきだが、周辺道路が狭いなどの問題もある。これは自社だけでは解決できない課題である。

当社は東日本大震災で被害を受け一時的に操業停止となったが、短期間で操業できたのは、国・県が八戸港の重要性を理解し、いち早く航路啓開※や防波堤などの港湾施設の復旧に取り組んで頂いたおかげである。

※：航路啓開：海上輸送による大量の救援物資の受け入れを行うべく、支援船を接岸できるようにするための海面浮遊物除去、航路内の支障物を揚収する緊急復旧事業

Q4. 今後の八戸港に望むことについてお聞かせください。

当社は、引き続き効率よくニッケル資源を回収・製品化し、この八戸製造所を今後も永続させ、更に成長・発展させていくことが使命だと考えており、その為には八戸港の存在は非常に大きなウエイトを占めている。八戸港は、隣接する発電所から安定した質の良いエネルギーが調達できること、物流や施設メンテナンス会社が充実していること、優秀な人材が豊富であることなど、工業港として産業基盤がしっかりしている。更にそれらが強化されれば、私たちの存在価値がより高まると考えている。今後も八戸港の発展を着実に進めてほしい。